

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292200076		
法人名	医療法人社団 聖山会		
事業所名	グループホーム 風早の里		
所在地	千葉県柏市塚崎 997-3		
自己評価作成日	平成25年11月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8		
訪問調査日	平成25年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自然にあふれる笑顔を大切に」の理念に沿って、職員全員が入居者の皆様と笑顔で接しています。当施設ではグループホームならではの個別ケアに力を入れています。個別ケアの一環として入居者様と1対1で会話をし、御本人の心理状態の把握、体調の把握を行い、レクリエーションでは1対1の散歩、買い物、ドライブ、外出レクには入居者様が全員参加1対1で対応しています。入居者様の一日の様子、外出時の様子等月に1回写真入りで報告御家族の方に好評です。誕生日会を夜の懐石料理店で祝い、ユニットの入居者様全員参加でおこないました。毎日を自分の家に居るようにゆったりと過ごしていただける事がスタッフの喜びです。風早の里での生活は静かに流れています。入居者様の体調面に関しては、母体が医療法人であることから、緊急時、急変時には24時間体制で行なえるよう協力体制が整っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム風早の里」は、入居者の笑顔を大切に、全ての入居者にその人らしい生活が営めるように支援する事を目指しているグループホームである。ユニット毎に取り組み内容が異なっており、入居者一人ひとりの希望・身体状況等に配慮しながら外出支援・食事提供等を行い、生活の活性化を図っている。また、家族との信頼関係構築にも努めており、運営推進会議への入居者家族の出席率も高く、日頃から家族からの協力も得られている。今年度は職員の内部・外部研修の実施・参加機会を増やし、職員のスキルアップを図ると共に、柏市グループホーム連絡会を通じて、市や他施設との意見・情報交換や交流を積極的に行い、施設運営やサービス向上に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気の中、入居者様が笑顔で自立した生活が送れるよう支援している。個々の職員の能力、希望に合わせた研修への参加に努めている。	「自然にあふれる笑顔を大切にする」を施設の理念としており、理念を施設内に掲示し、入居者・家族・職員・外部の人達等へ理念の周知を図っている。また、今年度は職員に研修参加の機会を増やし、理念に基づいたサービス提供・ケアの向上にも取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入、地域のサロンへの参加。また地域の中学校の福祉体験学習や福祉専門学校の実習生の受け入れをおこなっている。	自治会に加入すると共に、地域行事や高齢者との交流の場への積極的な参加を行う等、地域交流に努めている。また、地域の中学生・高校生の職場体験や専門学校実習生の受け入れも行われており、地域貢献にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望の御家族の訪問・見学、入居者家族の訪問時相談にのっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センター、地区社協、民生委員、御家族代表、入居者を交えて現況報告、行事予定、報告、事故報告等の報告と御家族を交えての防災訓練を行い、皆様の助言、要望、意見を聞き可能な限り反映できる様取り組んでいる。	地域包括支援センター職員・社会福祉協議会職員・民生委員・入居者・家族・職員等を構成員として、3か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では施設活動の報告や意見・情報交換等を行い、施設の理解促進に努めると共に、挙げた意見をサービスの質の向上に活かしている。また、会議の中で、防災訓練を実施し、参加者との協力体制の強化を図る等、運営推進会議を活かしながらサービスの質の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者支援課、地域包括センターに直接訪問したり、電話等により不明な事項などを相談し早期に解決できるように連携している。	日頃から市に対して、業務全般における報告・相談等を行っていると共に、運営推進会議を通じて、意見交換や情報交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。柏市グループホーム連絡会に加入し、会議を通じて、市と意見・情報交換等を行っており、相互に地域福祉の問題解決や活性化に取り組む体制が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加、事業所内での研修を行い、身体拘束防止マニュアルに沿って拘束のないケアを実践している。	身体拘束排除における施設方針やマニュアルが整備されており、施設内に掲示している。内部・外部研修の実施・参加をしており、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。施設の方針や取り組み等については、入居者・家族とは同意書を交わしており、家族からの理解は得られている。職員による見守り方法を工夫し、一人ひとりに即した安心・安全に配慮された暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、事業所内での研修を行なうと共にユニット内で会議を行い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加、資料を配布して理解を深められるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書、重要事項の説明を丁寧に行い、不明点等がないかの確認を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、相談窓口、意見箱を設置すると共に、家族来訪時や電話連絡時に家族の要望、意見を確認。挙がってきた意見や要望に対しては、会議や申し送りを通して職員に通知・検討し迅速な対応を行なっている。	家族の面会時・電話連絡時・運営推進会議等を活用して家族の意見・要望を確認している。より多くの意見を引き出すために運営推進会議の出席率向上を図ると共に、家族が意見を言いやすい信頼構築に努める等、様々な工夫を行っている。挙がった意見・要望等においては、職員全員に周知し、会議にて検討しながら適切な対応を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議・全体会議・申し送り時等で意見や提案を確認し、会議で検討反映させている。	定期的な会議を開催し、全職員から意見・提案等を確認している。管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り、意見や要望を言い易いような環境作りを心掛けている。挙げた意見・要望・情報等は会議にて検討を図り、ケアに反映させており、勤労意欲向上に繋げている。また、内部・外部の研修への参加や柏市グループホーム連絡会による同業者との交流の機会も確保されており、施設や地域のサービス向上を目指した人材育成にも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給、又介護職員処遇改善交付金を活用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種外部研修への参加、講師を招いての内部研修を行ない、新人研修としてエルダー制度を導入。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連合協会の定例会・研修会に参加。また他ホームの管理者との交流をおこなっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活歴や、生活に対する習慣・こだわり精神面等を丁寧にアセスメントする事で、ご本人を理解し、適切な声かけ、個別での対応を行い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を傾聴し、真の要望や困っている事を確認、なんでも相談できる環境、雰囲気作り、いつでも連絡が取り合える体制を整え、職員が周知できるよう情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族の言葉や本人の身体状況からニーズを導き出し、サービスを見極め、必要とされるサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの思いを大切に、日常生活を共に送る家族として、一緒に楽しみ、共感しあえる環境をつくり、ご本人に寄り添っていけるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回ご本人の日常生活の様子を各担当者が書いて送付している。必要時にはご本人の様子を電話連絡し家族が面会に来られる機会もてるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の意向に添って、連絡できるように支援している。入居前の友人、知人との交流、馴染みの場所などを把握し、家族の協力を得て継続出来るように支援している。	地域の商店への買物や地域行事への参加を通じて、馴染みの場所への外出を支援している。また、家族との外出・外泊は自由となっており、家族との関係継続も支援している。入居者の希望に応じて、友人との手紙のやり取り等を支援し、良好な関係継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話が弾むような座席の配置と、入居者同士の会話をスムーズに行なうため職員が間に入り入居者同士が関わり合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じ相談や関係機関の紹介等をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、ご本人の状態やご本人の話を傾聴し、思いや意向を把握しケアカンファを行い、出来るだけご本人の意向に添ったケアを提供している。	契約時に、本人・家族から意向・生活歴・身体状況を確認すると共に、必要に応じて、医師の意見書や他の介護サービス事業所から情報提供を受ける等、より詳しい情報の把握に努めている。入居後は、生活の様子や会話の中から意向をくみ取り、記録している。また、家族との話し合いや職員間の検討を通じて、その人らしい生活に向けた支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人の生活歴、こだわり、趣味、性格等をご本人、家族から聞き取り把握につとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の状況をケース記録、排泄状態、水分、食事量、バイタル等個別に記録し、又朝の申し送り時夜間の状態等を報告、一人ひとりの状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族の意向を踏まえ、記録を活用し、管理者、居室担当者が介護計画の原案を作成している。ユニット会議において原案について話し合い、意見をまとめた上で介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認、評価を行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。	本人・家族の意向や記録を基に、計画作成担当者が介護計画の原案を作成した後、全職員にて意見・情報交換を行い、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認や評価を行い、必要に応じて介護計画の見直しを実施している。入居者の趣味・特技・残存能力を活かせるよう検討をしながら、現状に即した介護計画の作成を心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、申し送りノート、日誌、健康管理表の記入、毎日の申し送りを通し情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が対応できない場合の病院受診や緊急時の受診は家族と相談しながら行っている。又買物等も代行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問歯科、訪問理容、地域の高齢者交流会等を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医への受診が可能である。状況に応じて職員が付き添い支援をおこなっている。定期的に内科医、歯科医による訪問診療が実施されている。又訪問看護ステーションと契約を結んでおり、健康管理、相談を行なっている。	協力病院や希望のかかりつけ医へ受診が可能となっており、必要に応じて職員が通院の付き添い支援を行っている。定期的に協力病院の内科医や訪問歯科医による往診が実施されており、適切な医療支援が行われていると共に、緊急時・急変時には24時間体制で協力が得られるよう連携を図っている。その他にも、訪問看護ステーションと契約しており、看護師による健康管理・服薬管理・医療面における相談や対応等も行っており、入居者・家族・職員等の不安解消に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化時には、訪問看護ステーションの看護師に報告、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院側に情報の提供を行い、面会や電話等で情報収集を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、もしくは終末期において、ご家族と話し合いを持ち、必要に応じて医師、訪問看護ステーションの看護師、職員と対応方法等を話し合い、ご本人、ご家族の意向に沿った終末期の支援に努めている。	重度化・終末期においては指針を明文化し、入居者・家族へ説明の上、同意を得ている。重度化・終末期においては、全職員が入居者・家族の意向を確認しながら、支援方法の検討・統一に取り組んでいる。日頃から医療面においては協力病院の医師や訪問看護ステーションの看護師等と連携を図っており、状況の変化やニーズに応じて適切な支援が行えるよう体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が柏市東部消防署で行なわれる救命講習に参加研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの非難誘導訓練を年2回実施。運営推進会議で家族参加での避難訓練をおこなっている。定期的に火災報知機の取り扱い等を職員で確認、非常時に備えている。	緊急時・災害時マニュアルが整備されており、避難経路図の作成・掲示・複数の避難経路が確保されていると共に、消火器・自動火災報知機等の機器を設置し、災害時・緊急時に備えている。消防署立会いの下、年2回、避難訓練を実施している。訓練では、夜間・地震等、様々な想定で行っている他、避難経路や対応方法の確認を行っている。また、AEDの設置・救命救急講習の受講等、緊急時・事故発生時の対策も講じている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の人格を尊重し、ご本人が理解しやすい言葉を用い、自己決定が出来るよう配慮している。又外部のコミュニケーション研修に参加しコミュニケーション技術を習得し現場に活かしている。	会議・研修等でプライバシー保護や接遇についての指導を行っている共に、職員の入職時に誓約書を交わす等、入居者の個人情報保護・プライバシー保護の徹底を図っている。職員は入居者一人ひとりに合わせた言葉掛けや介助方法を工夫する等の配慮をしながら、日々の業務に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけの訴えではなく、表情、しぐさ等でご本人の思いを推測し、自己決定が出来るよう問いかけをおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の、その日の状態に合わせ柔軟に対応する様心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は職員がアドバイスをしながら選んで頂いている。又訪問理容、お化粧品教室に参加しおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の能力、希望に応じて、食事の下ごしらえ、味付け、後片付け等を職員と一緒にこなしている。	献立と食材の購入は、一部を委託業者を利用しているものの、ユニット毎に入居者の嗜好・身体状況・栄養バランスに配慮された食事提供がなされている。また、手作りおやつ・誕生会・外食会等もユニット毎に入居者の希望を取り入れており、入居者の楽しみが増すように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の食事量を把握し、摂取量が減少した場合は、食事形態の見直しを行いご本人に合った形態で提供、又好みの物を提供している。水分確保の為、好みの飲み物の提供、決められた時間以外にも水分補給を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。週1回の訪問歯科の診療での治療、口腔内チェックを行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導で排泄の自立に向けた支援を行なっている。	排泄チェックリストを活用しながら一人ひとりの排泄パターンの把握に努めると共に、適切な声かけ・トイレ誘導を行い、一人ひとりに合わせた排泄支援を行っている。夜間においては、入居者の能力や状況に配慮しながらトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。また、水分チェック表の活用・日常の運動・医師や看護師との連携等、適切な排泄習慣の確保にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状態を把握し、水分補給、腸内環境を良好にする飲み物等の提供を行なうと共に、主治医による薬の処方。毎日の運動を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施しており、入居者の希望や体調に合わせて柔軟に対応している。拒否がある場合は無理をせず、タイミングを待ち入浴して頂いている。	浴室には、暖房・トイレ・天窓が設置されており、安全で快適な入浴ができるよう配慮した造りとなっている。入浴は毎日実施しており、希望や体調に応じて回数・時間等、柔軟に対応している。また、必要に応じて清拭・部分浴・シャワー浴を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者、個々の状態を把握し、自由に生活できるように気を配り、疲れている様子が有れば、声かけを行い居室で休んで頂く。睡眠状態を把握し個々に合わせたケアを実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1包化された処方薬を誤薬のないように、職員同志で確認後、ご本人の前で名前を確認し服薬介助をおこなっている。内容変更時は、その都度職員全員が周知できるよう申し送りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、洗い物、洗濯たたみ、掃除等を無理のないようお願いし、散歩や買い物好きな方には買出し時に同行してもらっている。外出行事や地域の催しに参加し気分転換を図ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望・体調・天候に応じて散歩等の外出支援をおこなっている。季節ごとに外出行事を企画、実施している。御家族の協力を得て、外食や、お墓参り等も行なってもらっている。	日頃から散歩・買い物・ドライブなどの外出支援をユニット単位で行っている。年度計画に季節に合わせた外出行事が企画されており、家族を招待する等、戸外での楽しみを支援している。また、地域行事・催し物・集会等にも積極的に参加しており、地域住民との交流を広げながら、施設の理解促進や入居者の生活活性化に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、施設では管理していないが、紛失する可能性があるという事を御家族が納得されている場合、ご本人が持ち、買い物時の支払いなどが出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「書く」事が難しい入居者の場合、電話をしたい要望があれば相手先の時間等を考慮しながら使用していただいている。書ける入居者に対しては職員が付き添い書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節折々の飾りつけを行い季節感を感じていただけるよう気配りを行っている。空調、換気、湿度に注意し機器の点検、清掃を行い清潔保持に努めている。	施設内は十分な介助スペースが確保されており、入居者の安全が確保されていると共に、天窓の設置・空調管理により、明るく居心地の良い空間となっている。ウッドデッキが設置されており、気軽に外の空気を楽しめる環境となっている。また、ユニット間の行き来や出入りが自由となっており、交流や気分転換ができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係に配慮し、自発的な行動が出来るよう配慮している。フローアやウッドデッキ玄関に椅子を配置して自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談し、馴染みの物を持ち込んでいただき、安全で落ち着いた環境で過ごせるよう配慮している。	入居者・家族の要望により馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活出来るように配慮されている。入居者一人ひとりの生活歴に考慮しながら、一人ひとりの個性や特徴に合わせた居室作りがなされている。居室表札・飾り付け・掲示方法等、身体状況に応じた工夫しながら、自立に向けた支援がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や居室の名札は、入居者が迷わない様に個々に合わせ工夫している。手すりを設置し転倒なく安全で自由に歩行できるよう配慮している。		